



みなみおか

第9号
2019. 8. 30
発行



2学期が 始まりました!

2学期が始まって、1週間が過ぎました。25日の始業式の日には、体調を崩してお休みの子もいましたが、元気よく登校でき、嬉しく思いました。夏休み中にぐ〜んと背が伸びた子や日焼けして元気いっばいの子、何だか少し大人になったような引き締まった顔つきになった子・・・など、夏休みを楽しく過ご



せた様子がわかりました。廊下には、子ども達の書いた日記や夏休み新聞などが掲示してあります。どんな夏休みを過ごしたのかよくわかりました。どこかへ連れて行ってもらったり、新しいことにチャレンジしてみたり、中にはこんな体験をした子もいました。

「今日、わたしはヘアードネーションをしました。ヘアードネーションとは、がんやびょう気でかみの毛をうしなってしまう人たちに、わたしたちのかみの毛をきふして、かつらを作るといふものです。わたしは、31cm かみをきって、きふしました。一つのかつらを作るには、30人ぶんのかみの毛がひつようだそうです。わたしのかみもだれかのやくに立ったらうれしいです。」

すてきな体験をしたのだなあと思いました。他にも、たくさん紹介したいのがあります。他の人たちがどのように過ごしたのかなあ・・・と興味ある人は、是非他の学年や学級の人々の日記や新聞を読んでみてください。楽しいですよ!



さて、2学期に頑張ってもらいたいこととして、始業式には次のような話をしました。新しい年を迎えた1月の始業式でも、新しい学年に進級した4月の始業式でも「心を鍛える、脳を鍛える、体を鍛える」ことを頑張ろうと伝えてきました。



毎日の学校生活で、子ども達はいつもそのことを意識しながら、頑張ってくれていると思います。ところが、1学期に「どうして、心や脳や体を鍛えなくてはいけないの?」と質問にくる子や「何のために鍛えるの?運動なんかしたくない、勉強も嫌だ!」という子もあったの

で、そのことの答えになればと思いながら話をしました。

「授業で得る知識、授業で身に付ける技能・技術、そして、授業で育成する思考力、判断力、表現力等の力は、世界中の人と自分がつながるために必要なことである。」



1時間の授業で学んだこと、また、友だちと一緒に遊んで学んだことは、全てが人と人がつながるためにあるということなのです。人と人がつながるために一番大切なのは「ことば」です。何かを伝えようとするときに「文字やことば」を知っているとつながりやすいです。だから、1年生に入学すると「あ・い・う・え・お・・・」と最初に文字を習うのです。習うと書きたくなったり、使いたくなったりします。習った文字で何を伝えますか?文字を習うと手紙が書けます。遠い所に住んでいる人にいろんなことを詳しく伝えることもできます。漢字を習ったり、難しい言葉を覚えたりするともっともっと詳しくわかりやすく伝えることができます。新しい漢字を習ったら、その字をどのように使ったら人とつながれるか考えてほしいと思います。短文づくりにも、その思いが活かされるといいなあと思っています。また、みんなが着ている服「何からできているんだろう?」と考えたことはあるでしょうか。ほとんどの人の服は石油からできていると思います。まず、そのような疑問を持つことが大切なのですが、石油から化学繊維に作り替えられて服になります。これらのことは、インターネットを使えばすぐにわかる知識の一つです。でも、そこから先を大事にしてほしいのです。どこの国の誰が石油をくみ出しているのか、その石油を誰がどのようにして日本に持ってきているのか、そして、誰が服にしているのか、服にした製品を誰が運んでお店に並べているのか・・・と想像してほしいのです。そこには、自分で考える以上に人が関わっていることが想像できると思います。そうすると、たった1枚の自分の服だけけど、いろんなことが見えて来て、人のつながりでできていることがよくわかると思います。

将来、何かの仕事に就くと思いますが、どんな仕事でも「人」とのつながりが見えないとできません。電車やバスの運転手、先生、医者など「人」と直接関わりがある仕事、営業などは見えない「人」を想像して「人」の心を動かす仕事、工場での生産は見えない「人」へ届けるものを作る仕事、研究職は「人」のために課題に向かい解決する仕事・・・と「人」と関わりのない仕事はありません。

だから、学習して得たことは、世界中の人とつながるためにあるのだということ、これがちょっと難しい言葉でいうと「社会に出たときに役立つから」とか「生きる力となるから」という意味なのです。

31cmの髪の毛を寄付した日記も、31という数字や長さの単位を知ったからこそ書ける日記、学んだことを上手につかっていますよね!

2学期は、学習している事柄、また、自分の発する言葉やしている行動など、日々人との関わりを意識して、過ごしてほしいと思います。